

# 令和3年度第10回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 令和4年3月22日（火） 午前10時30分から11時50分まで
- 場 所： 市立病院北館7階ホール1
- 出席者：
  - 理事長 黒田 啓史
  - 理 事 清水 恒広, 岡野 創造, 森 一樹, 半場 江利子, 松本 重雄,  
位高 光司, 能見 伸八郎, 山本 みどり, 白須 正
  - 監 事 長谷川 佐喜男, 中島 俊則
  - 事務局 折戸経営企画局次長, 長谷川管理担当部長, 大島京北病院事務管理者・統括  
事務長, 菱田経営企画課長

## 1 開会

## 2 議題・報告事項

### (1) 月次収支報告（1月）（報告事項）

資料1に基づき、折戸経営企画局次長から説明

- 病床確保の補助金については1月までの実績額なので、今後、2, 3月分が追加され、増えることか。いずれにしても最終的に黒字の見込みとなり良かった。  
→ 補助金は2, 3月分も収入するので、最終的な額は今より増加する見込みである。ただし、病床制限の影響はあるものの、この補助金がなければ赤字であり、コロナ収束後にいかに病床稼働率を上げることができるかが重要と考えている。
- 今後、医業収入が伸びる余地はあるか。また、コロナ後遺症外来といった新しい診療科の設置は計画しているのか。  
→ 幸い診療報酬単価の高い状況が続いているが、今の病床稼働率を保つつ、患者数をある程度増やすことができれば、黒字経営は可能と考えている。引き続き、患者獲得の取組を進めていく。コロナ後遺症外来の設置については考えていないが、現在でも感染症科を中心に患者への個別対応を行っており、こうした対応は継続していく。
- 補助金収入がなくなってからが本当の意味での勝負だと思う。市立病院の印象は、総じて皆親切であるが、精算時の事務の流れが悪く、他病院の方がスムーズとの声も聞く。  
→ 精算に時間が掛かっている状況は認識しており、貴重な御指摘として受け止める。受付時や紹介を受ける際の窓口の流れなど、改善すべきことはたくさんあるが、良い病院になるための伸びしろがあるとも言えるので、真摯に改善に努めていきたい。

### (2) 令和4年度年度計画（案）及び予算（案）について（議事）

資料2に基づき、折戸経営企画局次長から提案

議案のとおり承認された。

- 令和4年度の予算策定に当たっては、今年度の新型コロナ対応の休床等の体制を続けることを想定しているのか。

- 令和4年度予算では、ポストコロナをにらみ、新型コロナウイルスの影響を除いた形で予算組みを行っている。高い目標ではあるが、通常どおりの運営を行う中で収支均衡を図っていきたい。
- がん診療に力を入れて記載されていると思うが、市立病院の課題・問題点はどこにあると認識しているか。市民からの認知度なのか、設備上の問題なのか。
- 事実として、市内には市立病院規模の病院はたくさんあり、どこもがん診療に力を入れている。術後の経過が良いダヴィンチ手術も、大病院ではどこも導入しているため、市立病院を選んでもらうためのアピールが必要であると考えている。
- 一例であるが、がん患者への就労支援として現在、乳がん患者の放射線治療を平日夕方の遅い時間にも対応している。また、数は少ないが、がんゲノム医療に取り組んでおり、京都大学の連携施設となっている。遺伝子が関係するがん医療の分野にも力を入れていきたい。
- 特定の取組のアドバルーンを上げるというよりは、患者から診てもらってよかったですと思ってもらえるよう、入院前の相談、適切な治療、退院後の関わりまでのシームレスで親切な対応にしっかり取り組んでいき、これを特長としていきたい。
- 大きな病院では難しいかもしれないが、かかりつけ医から紹介を受ける際の対応窓口について、地域連携室の事務職でなく、医師同士が直接やり取りできる仕組みが構築できないか。専門職同士が話し合うことにより、例えば優先度の高い患者が分かるなどの利点があると思う。
- 診療科によっては医師同士の直接のやり取りもあるかもしれないが、システムとして紹介時にダイレクトにつながる仕組みにはなっていない。すぐの導入は難しいが、ファーストタッチの垣根を低くして紹介をいただくことは大事なことであるので、他病院の例も参考にしていく。
- 病診連携はイメージできるが、病病連携のイメージがわからない。こうした病気なら市立病院でというように、特長をアピールしていく必要があるのではないか。
- 地域医療構想でも役割分担して機能分化を図っていくことが謳われているが、総論は賛成でも重複する機能を廃止するというところまではなかなか進んでいない。一方、急性期から回復期へとつなぐ後方連携については、後送病院との連携を強化していく必要があり、病病連携の強化が重要であると認識している。
- がんばっている取組やユニークなものは、地域の学会などの医師の集まるところで積極的に発信してはどうか。地域への発信によりイメージも変わると思う。
- コロナ禍もありWEB開催が続いているが、地域医療フォーラムは継続して開催している。昨年から始めた市民公開講座ではYouTubeによる配信にも取り組んでおり、工夫して効果的な周知方法を取り入れていく。
- 年度計画の前文で職員の経営参画に触れている。温かい医療の提供と病院経営は相反する要素もあるが、現場の職員が経営を意識することは大事なことである。
- 職員に対しては常々お願いしているが、一人ひとりが病院を支えている意識を持ってほしい。そうした意識で経営改善に向けた提案が出てくれば何よりである。職員満足度の向上が患者満足度の向上にもつながっていくと思う。
- 冒頭説明のあった市立病院の特定病院群への指定については喜ばしいことである。誇りという意味でモチベーションの向上にもつながると思う。
- 結果として、コロナ禍の厳しい状況の中で指定を受けることができた。指定は2年ごとに行われる評価に基づくため、今年の10月からが次の算定期間となる。気を緩めることなく、地道な

努力を継続していく。

○ 年度計画の全体の印象として、テーマが膨大なため、全て同時に取り組むのは不可能と思う。

ロードマップを作り、順に取り組んでいってはどうか。

→ 貴重な御意見であり、ポイントを絞り、優先順位を付けて取り組んでいきたい。

### (3) 示談案件について（議事）

資料3に基づき、長谷川管理担当部長から提案

議案のとおり承認された。

## 3 閉会